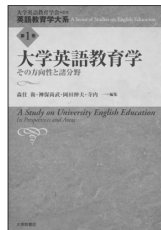


英語教育学大系

## 大学英語教育学

森住 衛, 神保尚武, 岡田伸夫, 寺内 一 編集  
大学英語教育学会 監修A5判 304pp.  
本体3,200円＋税

小串雅則



## 大学英語教育から初等中等教育の英語教育を考える

大学英語教育学会 (JACET) は、2012年に設立50周年を迎えるのを機に『英語教育学大系』の監修を企画しました。これにあたり、JACETは全学会員に対して大学英語教育学及び英語教育学全般が対象とする分野・領域についてのアンケートを行いました。その結果、135項目の分野・領域が抽出され、それらを整理・統合して13巻の『英語教育学大系』にまとめました。即ち、この大系は大学での英語教育に関わる主な研究課題を網羅していると同時に、英語教育全般が直面している諸課題をも反映した内容となっています。

さて、本書は『英語教育学大系』の第1巻として、他の12巻を総括する内容となっています。全体は2部構成で、第I部は「大学英語教育の諸相と方向性」について、中高の英語教育との連携、他の研究領域などとの連携、言語政策、国際化、情報化、産学連携、大衆化、目的論、言語文化観、リベラルアーツなどの視点から考察しています。また、第II部の「大学英語教育と諸分野」では、各章が『英語教育学大系』の第2巻以後で扱う内容をダイジェストしています。そのテーマを列举すると、英語教育政策、英語教育と文化、21世紀のESP、第二言語習得研究、成長する英語学習者、大学英語教育と教員養成・現職教員研修、英語研究と英語教育、リスニングとスピーキングの理論と実践、リーディングとライティングの理論と実践、英語授業デザイン、大学英語教育におけるメディア利用、テストングと評価となります。以上のように、多岐にわたるテーマを一冊の図書で扱った結果、隔靴搔痒の感が否めないのも確かですが、本巻自体のシリーズ内の位置づけからすると致し方ないでしょう。

高校で英語を教える先生方にとって、卒業生が大学で受ける英語教育は大きな関心事でしょう。教育機関としての大学での英語教育に共通の課題は、中学、高校で英語を学んできた学生に、実用の面からは職業人として必要な英語力を身につけさせることであり、教養の面からは成人にふさわしい教養の基礎としての英語力を身につけさせることでしょう。本書の第I部を通読すると、このような課題を抱えつつ、大学英語教員が教育内容の改善策を求めて様々なアプローチを試みている姿が透けて見えます。さらに、研究機関としての大学は、英語教育に関する自らの研究成果に基づき、英語教育全体の改善に向けた具体的な方策を提言することも期待されているわけですから、大学英語教育学が担っている責務は実に大きいといわざるを得ません。例えば、本書の中では、受験英語に典型的に見られるような「大学を頂点とする大→高→中→小の逆順による逆三角形構造型の英語教育から生まれる諸問題」(P122)の解消策として、小、中、高の英語教育をEGP (English for General Purposes)の一貫した英語教育として確立し、その上に立って大学でのESP (English for Special / Specific Purposes)やEAP (English for Academic Purposes)の指導体制を確立することが必要であるとしています。しかし、そのような初等中等教育から高等教育に至る体系的な英語教育の構築には、その基礎となる到達目標の設定や指導内容の構築が必要です。このためには、まさに万人の英知の結集が必要であり、日本のアカデミズムにはそれを主導する「足腰の強さ」が期待されていることは論をまたないことだと思います。

主に大学での英語教育を念頭に置いた本シリーズは、高校の先生方には縁の薄いものにも思えますが、本巻の第II部を通読すると、本シリーズが大学英語教育を念頭に置きつつも英語教育一般に通じる諸課題を扱っていることが理解できます。今後刊行される各巻を手にとられる先生方は、本巻第II部の各章を手引として活用しながら、大学人が取り組んでいる英語教育の諸課題について、最新の学術的な情報を得るとともに、そこからご自身の英語指導の改善に向けた示唆を探ることもできるものと考えます。

(おぐし まさのり・元文部科学省英語教科書調査官)